

自ら学びに向かう子どもの育成

～認め合える集団づくりを目指した指導の工夫～

(3年計画の1年次)

校長 島浦 靖

1 研究主題について

(1) 教育目標具現化の立場から

青森県及び八戸市の学校教育指導の方針を受けるとともに、児童や家庭・地域社会との連携のもと学校経営に創意工夫をこらし、教育目標「めあてをもって自ら学ぶ子」の育成に取り組んでいく。その根幹として校是である「徳と知識を磨く」という基本理念を共有し、“笑顔いっぱい为学校”を目指している。学校は、子どもたちにとって学ぶ楽しさを実感できる場所でなければならない。その基盤となる学級に受容的・共感的な支持的風土が溢れるとき、子どもは、自分自身が受け入れられ、認められ、かけがえのない存在であることを実感し、学ぶ力が育まれると考えた。

そこで本校では、「自己肯定感を高める～やればできる！やったらできた！～」を学校目標とし、学習指導と学級経営において、次のことに取り組んでいく。学習指導では、自ら学びに向かう子どもを育てるために、目先の失敗や成功にこだわらず「まずはチャレンジ長者っ子！」を目指す子ども像として挙げ、授業の導入段階において児童の「解きたい」「解かずにはいられない」という思いを高めていく指導の工夫を、日常的な授業実践を通して明らかにしていく。また、学級経営では、これまでのソーシャルスキル・アンガーマネジメントの指導を継続することで、人とのより良い関係性の構築を図る。さらに、Q-Uを利用し、児童一人一人の学校生活に対する意欲や満足度、学級集団の状態を把握することで、児童個人や学級全体の状況についての理解を深め、支持的風土づくりに活かしていく。これらの研究により、本校の目指す子ども像“笑顔いっぱいの子ども”を具現化するために有効であると考え、研究主題を設定した。

(2) 児童の実態から

昨年度の研究では、導入から課題設定までにおける教師のはたらきかけの工夫によって、児童に必要感をもたせたり、参加意欲を高めたりすることができ、課題に対して主体的、能動的に取り組ませることにつながった。また、全員参加を目指した「聞く」ことの指導のために、日常の授業において教師が児童の発言をつないで引き出す教師の言葉がけ（ファシリテータ機能）を工夫したことによって、児童が自然につながり、互いの意見を聞いて自分の言葉で言い換えたり、付け足したり、比べたりすることができるようになった。

しかし、中には、課題に向かえなかつたり、課題解決の途中であきらめたりする児童も見られることから、導入から課題設定までに、解きたい、解かずにはいられない状況をつくり出し、さらに他者との協働による問題解決の過程を楽しませることが重要であると考えた。そのためには、特別支援教育の視点を生かした手立ても工夫しながら、より多くの児童が安心して活動したり、発言したりできる、認め合える集団づくりが必要であると考えた。

そこで今年度は、「自ら学びに向かう子どもの育成」を主題に掲げ、児童が「まずはチャレンジ！」という思いをもって課題に取りかかり、最後までねばり強く課題解決に向かえるように、教師は学級の受容的・共感的な支持的風土づくりに努める。また、児童の発言をつないでより広くて深い考えを引き出す言葉がけを日常化するとともに、一時間の授業や単元を通して自己の変容を児童自身にとらえさせることによって、自己肯定感を高める指導の工夫をすることは、努力目標「進んで学ぶ子」の育成につながるものと考えた。

2 研究のねらい

自ら学びに向かう子どもを育てるために、互いに認め合える支持的風土づくりに努め、課題に対して「まずはチャレンジ！」を目指した指導の工夫の有効性について、日常の授業実践を通して明らかにしていく。

3 研究仮説

互いに認め合える集団をつくり、「まずはチャレンジ」を目指した指導を工夫することで、自ら学びに向かう子どもを育てることができる。

4 研究内容

子どもの変容が見える授業づくりとして、以下の2点を示す。

- (1) 導入から課題設定までにおける教師のはたらきかけの工夫が、日常の授業において実践できているかについて検証する。
- (2) 各教科や発達段階における認め合える集団づくりを目指した指導の有効性について検証する。

5 年間計画

(1) 研究仮説に基づく授業研究等

月	日	学年・授業者等	全体会等
4	4		令和6年度の研究について共通理解① ・研究の方向性・概要・研修計画の提案
4	10		令和6年度の研究について共通理解② ・今年度の取組（知育部）
4	24		令和6年度の研究について共通理解③ ・今年度の取組（研修主任からの提案）
7	10	第1回授業研究 中学年ブロック 4年1組 授業者 教諭	研究協議会において成果と課題を見出す
9	11	第2回授業研究 低学年ブロック 1年1組 授業者 教諭	研究協議会において成果と課題を見出す
9	25	特別支援学級授業公開	通常学級で活用できる手立てについて研修
11	6	【要請訪問】 第3回授業研究 高学年ブロック 5年2組 授業者 教諭	研究協議会において成果と課題を見出す
12	4	低・中・高学年による「研究報告会」	研究授業未実施学年が今年度の取組報告 今年度の成果と課題（アンケート）
1	9		アンケートの結果の報告 研究の成果と課題
1	15		次年度の研究の方向性について①
1	29		次年度の研究の方向性について②

(2) 一般研修

月	日	内容・講師	
4	10	特別支援教育に関わる研修会①	特別支援学級担任
4	24	Q-U説明、ラジオ体操	校長
6	5	救命講習会	養護教諭
6	26	Q-Uの分析	講師未定
8	22	特別支援教育に関わる研修会②	講師未定
9	25	特別支援教育に関わる研修会③	特別支援学級担任
10	30	タブレット端末、デジタル教材	ICTリーダー
2	12	特別支援教育に関わる研修会④	特別支援学級担任

(記入者)